

大正六年十二月十九日第三種郵便物認可 (每月壹圓十五日發行)

阿武郡報

第十九號

大正七年二月十四日印刷
大正七年二月十五日發行
發行所 山口縣阿武郡役所
山口縣阿武郡萩町
第二千二百六番屋敷
印刷所 株式會社萩響海館

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト並ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕方意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎勵シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日



町村長集會

本月七日日本郡町村長集會に於て指示及注意したる事項左の如し

指示事項

一大正七年度郡事業施設に關する件

本年通常郡會の協賛を経たる大正七年度郡施設經營事業の梗概を左に録し各位の參考に資す

一郡吏員の派遣

建築土木吏員は前年度と同様町村土木建築工事の設計若は監督の任に膺らしむ旅費は派遣申請町村の負擔たること前年の如し

二 衛生事業の施設

本年は看護婦講習會を休止し衛生展覽會を郡内六ヶ所に開催し以て益々衛生思想の喚起普及に資せんとす其開催すべき町村の豫定左の如し

佐々並村 三見村 宇田郷村 福賀村
吉部村 篠生村

三 地方改良事業の施設

(1) 講習會開設

大正七年度に於ては春季農閑の際郡内町村に於ける中堅人物の養成講習會を開設し以て相當人材を得町村各般改善の衝に膺らしめんとす其開設地は萩町附近に設置の豫定なれば各町村一名以上人選の上一人に對し町村より五圓宛の講習費補給ありたし

(2) 表彰

團体又は功勞者の表彰は前年度同様なり

(3) 視察

從來優良町村の視察を爲さしめ來りしが大正七年に於ては之を改め町村長をして東京に於て開催する、地方改良講習會又は青年團講習會等に出席受講せしむること爲せり

四 郡報の發行

客年十一月第十六號より月刊に改め内容に於ても改善を加へつゝありしが今後は令達通牒をも掲載し以て一面執務上の便益を計り地方開發上の資料たらしめんことを期せり

五 郡史編纂

本年度に於て本郡々史を編纂し意義ある歴史を永久に傳へん爲め之が費金參百圓を計上せり各町村より自治教育産業其他各方面の史料提供を望む尙此機會に於て各町村史編纂を完了せられんことを望む

六 教育事業の施設

(1) 實科高等女學校經營

實科高等女學校の經費は總額八千七百六拾四圓にして昨年中計畫せる作法割烹室運動場の擴張工事今や全く完成し教員の配置も亦意を用ゐる遺憾なからんことを期す大正七年度に入學せしめんとする生徒數は本科第一學年百名に第二學年補缺入學若干名補習科若干名なり尙又其の入學試験施行の場所は實科高等女學校及生雲小學校須佐小學校の三ヶ所となさんとす各位生徒入學志願者に關し相當便宜を與へられんことを望む

(2) 圖書館の經營

郡立萩圖書館の經費總額は千三百九十二圓年度内購入圖書費は五百圓にして前年度と同様なり亦萩町に於て夏季臨時圖書閱覽所を設け夏季休業中閱覽の便を得せしむること前年と同一なり

(3) 小學校兒童聯合体育會

本年も昨年の通り開會の豫定なれば右に關する諸施設費相當計上せられたし

(4) 學事視察

學事視察費金貳百圓を計上す本年は郡内教員約十五名を選び一名に付金拾圓宛を支給し明石師範學校附屬小學校及愛知縣實業教育狀況視察の爲派遣の豫定なり町村よりも相當旅費の補給を望む

(5) 教育調査委員會其他

教育調査委員會の開催並に小學校兒童學力調査等の施設は前年と同様繼續す

(6) 教育會補助

郡教育會補助は昨年比し三十圓を増額し三百八拾圓とす其理由は青年團の發達を促さんが爲め青年團講習會を開催せしむる計畫なり尙教育會に於ては教育講習會教育品展覽會開設の事業企てられ

(7) 就學及出席獎勵

本年は赤貧者の子弟にして精勵せるもの及一部落にして全兒童の出席優良なるものに對し賞與することに規定を變更せんとす町村に於ても之に準する獎勵費相當計上を望む

七 勸業上の施設

(1) 産業技術員の配置

普通農事技術員一名を奥阿武に駐在せしめ専ら同地方産業開發の任に當らしむ

(2) 産業組合指導吏員の設置

産業組合の指導をなさしむる爲め産業組合主事補一名を設置す

(3) 屑鹵整理傳習開設

郡内四ヶ處に於て開設し所要器具及運搬費は郡に於て負擔し其他の費用は開設地元町村の負擔とす

(4) 疊表製造傳習開設

岡山縣より教師を傭聘し地福村に於て傳習を開催す

(5) 製炭傳習開設

自己所有林を伐採し製炭をなさしめんとするもの

- (6) 柿樹改良獎勵
柿樹改良の爲め優良種の穂木約四千五百本を購入し需要者に無代配付す
- (7) 夏蜜柑栽培
萩町二ヶ所椿郷東分村一ヶ所椿村一ヶ所計四ヶ所(一ヶ所約五畝歩)の蜜植老衰園快復試験の爲め肥料代を交付し郡技術員指導の下に作業せしむ
- (8) 蘭栽培獎勵
五反歩植付に要する蘭苗を育成して當業者へ無代配付す
- (9) 品評會獎勵
二ヶ町村以上聯合開催の品評會受賞者に對し郡長より褒賞狀を交付す
農家の土地利用品評會を開設し優等の成績を擧げたるものに對し賞金を交付す
- (10) 表彰
優良牛を生産し且つ之を保存するものに對し五人を限り表彰狀及賞金一人に付金拾圓宛を交付す

- (11) 耕地整理獎勵
耕地整理指定事務員の備聘をなすものに對し獎勵金として一日金七拾錢を交付す
- (12) 蠶業教師雇入獎勵及蠶業特別施設獎勵
町村及町村農會又は當業者十五名以上共同して郡長指定の蠶業教師を雇入るゝものには教師給料に對し蠶量壹匁に對し金貳拾錢を支出せしめ其不足額を獎勵金として交付す
- (13) 蠶業特別施設をなすものに對し獎勵金を交付す
副業獎勵
副業の振興を計る爲め左の獎勵金を支出す
イ、蠶表製造部落を指定し其の部落のものが蠶表織機を共同購入するものに對し運賃を補給す
ロ、蠶表の共同販賣をなすときは其運賃を補給す
ハ、切干大根製造をなさしむる爲め器具及製品販賣の運賃を補給す
ニ、佛掌薯品種改良の爲め種薯を養成し當業者へ配付す
ホ、萩大根及萩南瓜品種改良の爲め種子を採收し當業者へ配付す
- (14) 一本釣獎勵

- 一本釣の漁業に従事するものに對し左の獎勵金を交付す
- 大繩系一房二付 金壹圓貳拾五錢
 - 小繩系一房二付 金五拾錢
 - (15) 船曳揚機調製獎勵
漁浦に於て船曳揚機調製に對し五ヶ所を限り一ヶ所に付金三十圓を交付す
 - (16) 講習及傳習生獎勵
山口縣農事試験場講習部入場生に對し一ヶ月金三圓山口縣茶業傳習所入所生に對し一日金拾五錢交付す
 - (17) 畜産共進會出品獎勵
大正七年島根縣松江市に於て開設の中國六縣畜産馬匹共進會出品牛に對し一頭に付金拾圓を補助す
- 注意事項
一、豫算編製に關する件
二、公有林野整理に關する件
協 議 事 項
一、軍隊慰問並に營内宿舍視察の件

町村吏員満期

大正七年中に於て任期満了すべき町村長、助役及收入役左の如し

町村長の部		助役の部		收入役の部	
任期満了月日	町村名	任期満了月日	町村名	任期満了月日	町村名
四月廿四日	高俣	五月五日	徳佐	三月六日	町村名
九月一日	篠生	五月七日	地福	五月四日	吉部
十一月廿六日	萩	六月三日	奈古		
	倉増 美資		小野 甚作		氏 名
	柴田 淺吉		三好 音吉		大庭 平次郎
	内田 一心				明木 中谷 秀作
					末成 喜一

五月十日	奈古	小田	藤吉
十一月廿九日	宇田郷	領家	安藏

郷社新年祭祭典日時

町村名	社名	月日	時刻
見島	見島神社	二月十八日	午前十時
萩	住吉神社	二月廿一日	同
六島	大島八幡宮	二月廿二日	同
奈古	八幡宮	二月廿四日	同
佐々並	六所神社	二月廿五日	同
徳佐	八幡宮	二月廿五日	同
生雲	八幡宮	二月廿六日	同
福川	八幡宮	二月廿六日	同
須佐	松崎八幡宮	二月廿六日	同
三見	八幡宮	二月廿七日	同
吉部	八幡宮	二月廿七日	同
紫福	八幡宮	二月廿八日	同

視察記

阿武郡技手 藤井二郎

大正六年十一月十五日出發向ふ八日間に亘りて廣島岡山の兩縣に於て視察をなしたる状況次の如し

一 廣島縣佐伯郡立工業徒弟學校

本校は大正五年の創設にして指物科挽物科の二様あり校長始め生徒に至る迄皆職工服を着し學科の教授をなせば直ちに之を實習場に於て實地製作せしむる仕組にして實務家を養成するには極めて適當の施設にして卒業生は直ちに社界に立ちて獨立自營をなし得べき良學校なり

二 廣島縣佐伯郡河内村

河内村は佐伯郡の東端に位し廿日市驛を去ること東北約二里形は圓く東西、南北共約一里にして八幡川は村の中央を流れ上河内村下河内村上小深川村下小深川村の四ヶ村を合併して成立せる農村なり

戸數 四三〇戸 内農業三五三戸
人口 二、四四一人 内男一、二六二人 女一、一七九人

明治四十四年十一月内務大臣より表彰せられ金五百圓を授與せらるゝに至りたる要點は部落有財産として各部落不均一に百七十三町歩の山林ありて之を統一し村有となさんことを企て村民を説得するに約十ヶ年を要したるが明治三十七年遂に無條件にて全部村有となすに到れり之

に現存せる樹木は約五萬七千七百圓の見込なり又元村長の職にありたるもの四、五人ありて之等の人々相謀り相助けて一般村民を指導誘掖し毎年一回村民大會を開き村の事情を周知せしめ又村民の希望を語らしむるが毎回九割以上の出席者ありて一村は能く輯睦親和の美風に富めりと謂ふにあり

同村の事績中主なるもの

- 一、各種積立金
 - 小學校建築費積立 五三〇
 - 隔離病舎費積立 五七一
 - 獎善救療資金 五二(内務大臣ヨリノ賞金ハ之ニ加ヘ)
 - 小學校基本財産 七、五〇二(明治三十八年ヨリ向フ三十ヶ年間毎年百圓以上千圓以下積立)
 - 村基本財産 一、五六一(明治三十八年ヨリ向フ三十ヶ年間毎年五十圓以上五百圓以下積立)
- 尙ほ別に林野四十二町歩の拂下げを受け杉松栗樹ありて之を小學校基本財産となせり現在の立本四五萬圓の價値ありと云ふ
- 二、無限責任河内信用販賣購買組合
 - 明治四十二年九月の設立にして大正五年末の状況左の如し
 - 組合員 三七二人
 - 積立金 七、八三三

貯金 六二、三〇三圓
貸付金 一三、六六四圓
販賣高 三四〇圓
購買高 一〇、六四〇圓
剩餘金 一、七一三圓

販賣品は米麥購買品は肥料と酒を主なるものとし其の他農具醬油食鹽石油等なり

三、海外出稼者
北米合衆國を主とし其の他へ出稼せるもの三百九人(男二百六人)あり之等の爲めに村内へ入るべき金額一ヶ年約二萬圓の見込なりと云ふ

三 岡山縣都窪郡大高村農會

大高村は倉敷驛を去ること西方約一里にして東西二十六町南北三十町にして村の西端に一町四五反歩の小丘陵ありて之に神社存在し其の他は平坦開濶なる地形なり

戸數 九〇六戸 内農業六七三工業七二商業七五其の他八六戸
人口 四、九六人 内男二、五二八人 女二、四三二人

同村の農家は最も利益に敏くして農會技術員の如きは常に交渉ありて農家の後を追ふの狀態なり蓮根、蘭、薄荷の栽培は主なる副業にして其の産額を擧ぐれば

蓮根 大正六年 四四、七^五 四三、一九四^四
 大正五年 二二、八 二七、四二二
 薄荷 大正五年 四二、七 二七、二八〇

一、蓮根
 最初は隣村のもの山口縣岩國より種根を持歸り漸次同地方に栽培するに至りたるが近年伊豫種(支那蓮)を移入し全部之に代り植付地は普通の乾田を深さ一尺位に打起し水を引き入れ之に栽培するものにして反收量八百貫乃至千貫あり一貫目十三四錢にして收入金約百圓なり

二、蘭
 蘭は烟苗仕立にして疊表製造者は僅かに二十六戸同村産額の大部分は蘭草の儘販賣せり

三、薄荷
 薄荷は春季根を分植し年三回收穫するものにして
 第一回 六月 七分 作
 第二回 八月 一分五厘作 反收量二百五十貫
 第三回 十月 一分五厘作
 莖葉十貫目に付薄荷精品一斤を得るが故に反當二十五斤(一斤は百六十匁にして最高十二圓たりしことあるも普通は四圓内外なり)此代金百圓なり

四 岡山縣吉備郡岩田村

岩田村は吉備郡の東北端にありて中國鐵道足守驛を去ること約三里半にして純然たる農村あり東西南北共約一里山上、石妻、上高田の三ヶ村を合併して成立せる村にして舊三ヶ村は現今の大字なり南北に走れる各峪間は即ち大字の區域にして甲の大字より乙の大字に移るには峠を越へざるべからざるの地形にして斯る地形の村にありては常に各大字意志を異にし村の一致を缺くことあるは世間に其の例乏しからざるに同村には現村長尾俊憲ありて能く其の間の融和を計れるは誠に敬服すべきなり同氏は舊庄屋にして村内第一の資産家(小作米約六百俵を收得せり)にして町村制實施に當りては俊憲の父美賢戸長に選ばれ四期繼續し川畑直太郎一期勤務し其の後は俊憲村長の職に就き既に十五ヶ年勤続せり現に縣參事會員にして同氏は明治四年生岡山中學校卒業後小學校本科正教員の免許狀を受け助役を経て村長となれるものなり

戸數 三一六戸 内 農業三一一 商業二
 其の他三戸
 人口 一、五三一人 内 男七四一人
 女七九〇

を有する村にして明治四十三年二月内務大臣より表彰金五百圓を授與せらるゝに至りたる事績の主なるものを擧

ぐれば左の如し

一、勤儉貯蓄組合
 明治三十六年より一口十錢以上とし年三回共同貯金をなし明治三十八年に至り貯金高五百六十一圓となり茲に於て無限責任信用組合を設立するに至れり大正五年末組合の狀況を見るに

組合員 二五三人
 積立金 一二、三七〇^四
 貯金 四五、二六五
 借入金 一、八二五
 貸付金 三二六、〇六三
 剩餘金 二一、〇六三

にして總會の出席者は九一乃至九五%現在貯金五萬四千七百圓組合員全部貯金を有し最多二千圓最少二圓普通五十圓内外なり

二、青年團
 明治二十二年設立し明治三十八年現組織に改め十五才以上三十才以下の男子を會員とし農村風紀の改良農事改良の奨励及實行に盡力したる功績ありと認め明治四十二年十二月大日本農會總裁より表彰せられ大正三年二月文部大臣より表彰せられたるものなる

が外形上に於ては特に見るべきものあり察するに精神方面に於て優良の事績あるものならんも短時間の視察にては窺知することを得ず

三、國稅納付成績
 國稅納付成績優良の爲め明治三十八年三月神戸稅務監督局長より表彰せらる

四、村基本財産の積立
 明治二十五年蓄積方針を定め五十ヶ年を期して十萬七百九十三圓を積立つることとし最初二千四百圓なりしが利子の外毎年村費より三百五十圓を積立つるものなり現在六千四百八十九圓なり

五、岩田女學校
 明治二十七年の設立にして大正五年現組織に改め農村の主婦として必要なる智識及技藝を授くるを以て目的とし本科二ヶ年(高等小學校卒業生を入學せしむるもの)専科三ヶ年(尋常小學校卒業生を入學せしむるもの)研究科一ヶ年(本科及専科卒業生又は之と同年以上の資格を有するものを入學せしむるもの)にして現在生徒三十名教員は小學校教員兼務の外東京小石川技藝學校卒業生(月俸十六圓)を採用せり適當の教員を得たる爲め目下の狀況は村當局者の理想

に近づけるもの、如し
右の外聴取したる事柄にして優良と認むべきもの左の如し

- 一、組頭 村内を十七區に分ち各區に組頭を置く組頭は各區に於て互選し其の氏名を村長へ報告するものにして受持戸數一戸に付一ヶ年五錢の割合にて村より手當を交付し村事務執行上の機關たらしむるものなり
- 二、村吏員退隱料 明治四十四年五月の制定にして左の通支給す
 - 十五年乃至二十五年勤績 月給の三ヶ月分
 - 二十五年乃至三十五年勤績 同 四ヶ月分
 - 三十五年以上 同 五ヶ月分
- 三、道路補理撤除 春秋二回村民全部出役して施行し別に青年團へ對し村より手當金二十圓を交付し村民の實施せざる月は毎月青年會員をして實施せしむ

其他
海外出稼者八十六人(男七十一人、女十五人)あり主に北米合衆國にして之等の者が村内へ送致する金額一ヶ年四、五千圓なる見込なり

五 廣嶋縣御調郡美鄉村
蘭栽培及疊表製造

同村に於ける蘭の栽培面積は普通四五畝歩乃至一反五畝歩にして美鄉村字三成六十八戸に於て大正五年製造販賣せし産額は二萬一千七百三十圓一戸當平均三百二十圓にして同地方農家唯一の副業なり
苗の養成は全部畑作りにして本田一反歩の收穫は蘭草三百貫にして之より六百枚の表を製造することを得此代價は四百八十圓なり而して一枚の價格は引通九十五錢一等中繼一圓十五錢二等中繼七十錢なり
蘭草の賣買價格は一貫目に付長七十五錢一等品五十五錢二等品四十錢三等品五錢にして縦糸は一枚分十二錢織買は一枚五十錢なり
蘭作跡地に對しては全部稻作をなすものにして稻苗は適當の季節に一旦假植し置き蘭刈取後本植するものにして普通田の八分作なりと云ふ

兵 事

步兵四十二聯隊雪中行軍狀況

山口歩兵四十二聯隊に於ては大正七年度二年兵雪中行軍を實施すべく一月二十一日早朝屯營出發本郡篠生村を経て地福村に宿營せり豫て通報に接したる篠生村に於ては村長以下吏員附近在郷軍人等諸般の設備をなし沿道各戸の歡待より努めたり篠生尋常高等小學校は尋常五年以上教員引率送迎をなす地福村にあつては前日來豫定宿舎を配當し準備怠りなく村長以下役場吏員在郷軍人分會員七十余名協力斡旋せり當日午后四時聯隊長松井大佐を始め大隊長島少佐の率ひる兵士三百三十五名威風堂々隊伍を整へ到着す此日天氣清朗白雪皚々劍光相映と頗る壯觀を極めたり當地軍隊の宿營は近來稀にして村にあつては各兵士に對し一人參個宛の餅を寄贈し各宿舎にあつては酒肴を供し或は煙草を寄贈する等優待せり翌二十二日午前七時行軍喇叭の音勇ましく積雪の間道を経て都濃郡鹿野村に向へり

大正六年米實收高

本郡實收歩合縣下第一

大正六年度に於ける米實收高は縣下全體を通じ前年度に

産 業

比し著しき減收なるのみならず平年作よりも遙に其の減收を現はせり然るに我阿武郡は幸にして概ね氣候適順他郡に比し病虫害早害とも比較的少く前年に比し植付反別二十六町一反歩を減じたるも收穫は反て四千九百三十九石を増收し平年作よりは一萬二千四百五十三石の増收を示し縣下十二郡市第一の成績を挙げたり今各郡市及郡内各町村に於ける米實收高を比較對照すれば左の如し

大正六年各郡市米實收高

郡市別	大正六年實收高	前年作	平年作
大島郡	一、四八、八六六	一、四三、七二二	一、四一、六六九
玖珂郡	一、四一、八五二	一、三九、七五七	一、三九、三三二
熊毛郡	一、三九、四八二	一、三八、八四〇	一、三九、八七〇
都濃郡	一、三三、一四二	一、三三、〇九〇	一、三六、九三三
佐波郡	一、二七、四六六	一、二二、五五五	一、二六、三三〇
吉敷郡	一、一八、二六三	一、二二、八八五	一、二六、四三三
厚狹郡	一、三三、一〇三	一、三五、七五三	一、四一、三三〇
豐浦郡	一、一六、七〇九	一、一八、〇七二	一、一六、四七六
美禰郡	一、九三、二〇三	一、九四、九六一	一、九六、二二七
大津郡	一、九七、八七二	一、〇三、八三五	一、〇五、四三三
阿武郡	一、四一、八七二	一、四一、四〇八	一、四一、二二〇
下關市	一、三三、〇〇〇	一、三三、〇〇〇	一、三三、〇〇〇
合計	一、三三、八六六	一、四一、六六六	一、三三、八六六

大正六年郡内各町村米實收高

町村別	大正六年實收高	前年	平年
須賀	三、八九〇	四、二二一	四、二二一
福田	六、一三三	五、七〇〇	五、七〇〇
宇賀	二、四三三	二、七〇二	二、七〇二
奈古	五、七六一	五、五九〇	五、五九〇
大井	五、一五三	五、四八一	五、二七〇
紫井	七、八〇〇	七、三三三	七、三三三
福川	一〇、四七一	一、五四四	九、九三三
吉部	六、八七六	六、五九四	六、三三四
高保	六、〇一九	六、〇一〇	五、二七八
嘉年	六、三九二	六、一七〇	五、〇〇〇
徳佐	一五、六〇〇	一三、一九一	一三、六二二
地福	八、五三九	八、三三〇	七、九三三
生雲	八、四四四	七、九二七	七、四三三
篠生	六、四四四	五、六〇〇	六、一三三
川上	三、〇三三	二、八三三	二、八三三
佐重	六、六三三	六、四三三	五、九三三
明木	三、七六六	三、九三三	三、二〇〇
三見	三、三〇〇	三、四三三	三、七三三
山田	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
椿東	三、七〇〇	三、八二二	三、九三三
椿東	五、九八八	五、八三三	六、二七三
萩東	一、四八〇	一、四七六	一、四八〇
合見	一、四八〇	一、四七六	一、四八〇
計	一、四八〇	一、四七六	一、四八〇

小川	田崎	六島	見島	合計
三、六二一	四、四九六	三、三三三	三、三〇〇	一、四、八五七
三、六二一	四、四九六	三、三三三	三、三〇〇	一、四、八五七
三、六二一	四、四九六	三、三三三	三、三〇〇	一、四、八五七
三、六二一	四、四九六	三、三三三	三、三〇〇	一、四、八五七

農業部落經濟調査 (別紙參考資料比較表参照)

本郡各地に於ける農業部落經濟調査をふして参考に資せんとして昨年
中郡内六ヶ所を指定し福田郡技手専擔之を調査せり其情況左の如し

一、明木村字藏屋

藏屋部落は一般に富裕にして生計に困難を感ずる者なく
各種の産業穩健着實に行はれ一戸平均資産は今回の調査
に於て第二位に在り且雖も本業副業共に相當の成績を顯
はし殊に副業に於て見るべきものあり其の主なるものは
養蠶、木炭、畜牛、椿等にして總額二百四圓に上り主産物、
價格の五割五分に當れり一戸當生産額副産物價額労働者
一人當生産額共に第一位を占め負債人員は總員の二割九
分、當り其多くは生産資金に充用せる等の好成績を顯は
せり畢竟事業を起すに當り自家能力の程度を考察し努力
の分配に重きを置き殊に細心にして些末のものも雖も空
しくせず且つ研究を怠らざるに因す

三、生雲村字田野

資産は相當の額あり且雖も懸隔あり耕地は畑に乏しくし
て田地は一戸當一町二反歩を耕作す故に從來資本及努力
の大部分は田地に傾注せるを以て比較的收穫多く爲めに
本業生産額第一位労働者一人當收入第二位にありて他村
と大に懸隔あり且つ山林多くして一戸當三町歩を有する
に係はらず家計の之に伴はざるもの少なからずして負債
人員七割五分負債高は資産の三割に達せるが如きは大に
考慮を要すべき點なり是れ畢竟惰性的事業にのみ主
力を盡し副業が時勢の推移に伴はずして努力の分配頗る
不均一なるに歸着するなるべし即ち副産物は僅かに主産
物の七分三厘にして畜牛益金二十四圓ある外他に認むべ
きものなきを以て窺知するを得べし故に將來の改善方法
としては第一、養蠶、畜産、林業、家庭工業等副業を大に勃
興せしむること第二、畑地、少きを以て之れが補充策とし
て山林を開墾すること及田地の幾分を畑作物に充用する
こと等なりとす

四、小川村字市丸、北河内

資産第四位にありて耕地は田地比較的少きも畑は平均一
町四反歩を耕作す然れども畑の大部分は山林に等しき燒

將來の改善方法としては一、米麥の多收穫を計ること二、
耕地を開墾すること三、副業中養蠶は既に大に發達し居
るも他の畜産林業等を一層盛ならしめ且つ特用作物蔬菜
等に心を用ゆること四、冬季間の家庭工業を起すこと等
を必要と認む

二、大井村字坂本

耕地山林の狭き割合に戸數多く且つ地味良好にして米反
當收量は郡内第一位に居る等の關係上土地の價格他村に
比し頗る高價なるを以て資産高は第一位に在り然れども
生産之に伴はずして資産に對する割合は最下位にあり副
業は養蠶、畜牛、夏蜜柑竹林等に見るべきものあり且雖も
何れも擴張の地餘に乏しく近時養蠶業の勃興を見たるも
其方法拙劣にして努力の分配當を失し爲先に米麥收穫を
激減せるが如きは耕地少き本字として好現象なりと云ふ
を得ず而して負債人員及金額比較的多数が如きは主とし
て之等の點に因するにあらざるが將來改善の方法として
は第一養蠶技術を研究し努力經濟に注意を拂ふこと第二
大に家庭工業の勃興を計ること第三事業を一層集約的
ならしむること第四畜牛數を増加し且つ養蠶業を盛ならし
むること第五裏作として最も適切なる種類を研究實施す
ること等なりとす

畑なり副業の主なるものは製紙七十一圓を第一とし楮、三極(主に三極)三十九圓畜牛十七圓等之に亞ぎ副産物價額は第二位を占め主産物に對する副産物の割合は六割三分にして第一位にあり然るに本業たる米麥作は甚だ振はずして耕鋤肥培に欠陥少なからざるを認む故に副業の比較的發達せるに係はらず生計之に伴はず即ち負債人員九割四分資産に對する負債割合一割六分にして頼母子に依り姑息的彌縫策を講せる者少なからざる状態なり從て將來の改善方法としては主に第一米作の改良を計ること第二養蠶畜産林業を勃興せしむること第三、桐、莧、莧玉其他特用作物の栽培を爲すこと等なりとす

五 嘉年村字大迫

田地所有高は生雲村字田野に亞ぎ一町一反四畝歩に達せしるも資産は一千九十四圓に過ぎず是れ田地單價最下にして一反歩僅かに六十圓なるが故なりとす耕作田地は廣きこと第一位にありて一町四反六畝歩を算するも耕地の割合に農家戸數及收穫少きに因す一戸當主産物は三百九十圓にして第二位にありと雖も副産物は畜牛の九圓六十錢を最多とし他に認むべきもの殆んどなく其額僅かに二十圓に過ぎざるが爲め生産総額は第五位に下れり労働者一人當生産額は第三位なるも是れ労働者少く一戸當二人七

分なるに因す此の故に春夏、秋三季は米作の爲め殆んど勞力に餘裕なく冬季は閑散の状態にあり負債は一戸當七百五十圓にして第二位なるも資産に對する割合は實に五割二分に達せり蓋し耕地整理負債四百十五圓を有し之れが爲め田地單價を著しく低下せしめたるに因す故に一般生計に困難を示せるは勿論にして過度の節約を守れり將來の改善方法としては第一過廣なる田地の利用方法に新面を開くこと即ち米作面積を減じ桑樹其他特用作物の栽培をなすこと第二養蠶、畜産、林業等副業を盛ならしむること第三蘭栽培を盛にし冬季間副業として製蕪業を起すこと等なりとす

六 吉部村字平ヶ重

少數の良好状態にある者ありと雖も多數は大に經濟を紊し生計甚だ困難なり本部落は元と肥沃なる千石臺を控へ田地亦少なからざりし爲め良好の状態にありしも數十年前より來りし千石臺の荒廢は自然に負債を重ね遂に今日の窮况に陥りたるなり蓋し主として一家經濟に關し慎重を欠ぎたること及畑作物の改良並に適切なる副業を開却したる結果たらすんばあらず資産は四百十二圓にして最下位にあり負債人員十割其額三百廿六圓にして資産の七割九分に當る主産物は百九十六圓にして他村と大なる懸隔

あり而も此内六十六圓の小作料を支拂へり副産物は畜牛七圓八十二錢養蠶六圓五十二錢の外認むべきものなく總計二十二圓に過ぎずして甚だ貧弱なる状態を示せり以上の形勢は必然の結果として資金の大なる欠乏を來し積極的經營は行ふべくもあらず漸次破産の悲境に逢ひ若くは接近し或は自暴自棄に陥るものあり本部落の改善手段を講ずるに當りては大なる覺悟なかるべからず即ち物質的改善に着手すると同時に人心の收斂に最も力を致さるべからざるが故なり即ち第一資金の潤澤を計ること第二徳性の涵養を計り資金回収に便利なる方法を講じ之を最も嚴格にすること第三養蠶、畜産、を盛ならしむること第四桐、楮、三極等の栽培を行ふこと第五竹林を經營すること第六畑作の改良を計り殊に特用作物の栽培をなすこと第七米麥作の改良をなすこと第八家庭工業を起すこと等なりとす

各部落に於ける状態は大要以上の如く區々に涉ると雖も各部落を通じて農業上の欠陥と認むべきもの概ね左の如し

- 一、農業に關する知識乏しく見界狭きこと
二、指導者に對する信頼薄きこと
三、指導者と當業者との接觸十分ならざること

- 四、金融機關の不備あること
五、農産物販賣組織の不備なること
六、地主の小作人々對する注意の足らざること
七、細事を等閑に付すること
八、事業に對する歩調一致せざること
九、勞力を浪費若くは空費し之れが分配に注意を欠けること
十、青年者が老年者の言行に因はるゝこと

農業部落經濟調査ニ關スル所感

阿武郡技手 藤井二郎
福田阿武郡技手擔任の許に郡内上、中、下と認むべき農業部落六ヶ所の調査完了し其の成績を閲覧し感ずる所多し左に其の一斑を述ぶる所あらんとす
農家の負債は想像外に多く最多は一戸當平均八百十五圓最少と雖も三百貳拾六圓にして其の大部分は支出の收入に伴はざる結果より生ぜる消極的性質に屬するものなり

之が根本的治療を施すことは農家の經濟維持上最も緊要の事なりとす其の方法としては信用組合の活動に待つべきもの殊に多きを感ず即ち信用組合は永續的に零碎なる金を吸収して資金を得之を年賦償還の方法により貸付し貯て借金を完済せしむる手段を採ること必要なりと認む又一面農家の収入を増大せしむることを忘るべからず調査を見るに副業の收入大なる部落は經濟狀態良好なるも否らざるものは之に反す即ち収入の増大を計らんとするものは宜しく農業組織の改善に着目せざるべからざるなり言葉と換へて之を云へば田地の耕作に全力を集注するよりも相當面積の畑地を加へ養蠶業に三、四割の力を入れ又蠶表製造山林の經營等に相當の注意を拂ひ養牛養鶏等の遺利をも獲得することを忘るべからず軍隊の組織に例ふれば年々計畫を立て、實施すべき米麥作養蠶の如きは常備軍とも稱すべきものにして一度計畫を定め其の収入は數ヶ年の後に於て始めて之を收得するものは豫備軍とも稱すべきものあり而して常業に依る収入が豫定より少なき年に於て此不足を補ふ爲めに收得を企つる豫備業の必要なることは即ち經濟の基礎を鞏固たらしむる所以なり殊に前表によれば山林より生ずる収入の少なきは現狀極めて粗放に取扱はれ居るに基因するものにして大

に當業者の注意を望む點ありとす副業の狀態は市街地の遠近及自己在住地の狀態に依り變化極まりなきも各方面より考慮し最適のものを選び全收入に對する三四割は副業に依る収入を圖ることを最も必要なりと認む

優良貯金組合表彰

産業組合及漁業組合員にして規約貯金を行ひ其の成績優良なる貯金組合に對し岡村本郡長より表彰をなせり其の狀況及表彰文左の如し

表彰組合狀況

村名	組合名	組合員數	貯金總高	表彰金
明木	收元記念明木婦人貳部講下二組	九八	三一、七二二	三
同	收元記念明木婦人貳部講下三組	一〇	一〇、七六八	三
同	舞谷組規約貯金會	一一	一四、五四五	五
同	日南組規約貯金會	一一	二六、九九五	七
同	中ノ町積り貯金會	一一	二六、九四七	五
同	久年南組規約貯金會	一一	二六、九四七	五
同	久年南組規約貯金會	一一	二六、九四七	五
同	油免飛田貯金組合	一一	二六、九四七	五
同	土筒尾漁業組合規約貯金組合	一一	二六、九四七	五
同	宇久漁業組合規約貯金組合	一一	二六、九四七	五
同	木與浦漁業組合規約貯金組合	一一	二六、九四七	五
同	尾無浦規約貯金組合	一一	二六、九四七	五

田万崎	田万浦漁業組合規約貯金組合	七〇	一四二、〇一〇	一〇
計	拾參組合	二九七	四、四七二、六四	七六

表 彰 狀

何々貯金組合

各組合員勤儉貯蓄の志厚く共勵持久其の目的の遂行に努めつゝあるものと認む依て茲に別封賞金を贈り之を表彰す

大正七年一月十一日

山口縣阿武郡長正七位勳六等 岡村勇二

學 事

郡立實科高等女學校擴張工事落成式及開校五周年記念式

本郡立實科高等女學校は明治四十三年三月阿武郡會の建議に基き同四十四年三月本郡出身久原文子刀自建築費三萬圓の寄附と萩町の校地無償提供とにより其年十月工を起し大正元年九月を之を竣らしものにして當時校地面積壹町九畝貳拾貳步校舎建坪七百五拾九坪餘なりしが爾來運動場及農業實習園漸く狹隘を告げ且作法室及割烹室増築の要を感ずるに際し會々大正五年十二月久原房之助氏

夫人清子氏亡母の遺志を紹ぎ金貳萬圓を贈りて右擴張工事費、南園館維持資金並特別獎學資金に寄附の申込あり我郡會は直に之を採納し擴張の事を決す乃ち大正六年三月十日事業に着手し隣接地五反八畝貳拾參歩を買入れ作法室及割烹室舍監室を新築し廊下小使室寄宿舍等に移轉改築し南園館に中雀門及本門を築き土地買收費及建築費總額金壹萬七千餘圓を費して全く落成するに至れり去る一月二十五日右工事落成式及開校五周年記念式を舉行す當日來賓能美將軍以下峠内在郷將校瀧口郡會議長以下各郡會議員内田萩町長其他附近村長岩田萩中學校長其他附近學校長中場裁判所判事與山警察署長和田稅務署長其他官公衛吏員名譽職員學校關係者等百五十餘名列席す先づ中野教諭擧式の旨を述べ君が代唱歌勸語奉讀同奉答唱歌あり次で桂木郡視學の工事繼過報告岡村郡長の落成式辭米原校長の記念式辭來賓瀧口郡會議長内田萩町長及卒業生總代山本幸子の祝辭あり生徒總代都築ユキヲ答辭を述べて十時半閉式せり後ち生徒の學藝會薙刀試合等を演じ更に吹さすさぶ風雪中運動場に於て全生徒の徒手体操ありそれより各教室に陳列せる生徒學藝品展覽會及新築校舎内を順覽し來賓一同を食堂に案内し瓶酒折詰の饗應をなせり各自席定まるや岡村郡長の挨拶に能美將軍の答辭

あり宴酬にして吟詩謠歌盛會裡に解散せり因に當日本校
設立及擴張に多大の同情を寄せられし毛利公爵及男爵兩
閣下並久原家一族の來臨を得ざりしは遺憾とするところ
なりしが夫々懇篤なる祝電祝意を寄せられたるは感謝す
る所なり

學藝會及展覽會は何れも其成績優良なり状況左の如し

學藝會

開會の辭

書方 一年田村マサコ 同 桂ツネ 二年大賀ヒデ
二年竹内淑子 三年吉崎綾子 同 林文
補習科新庄貞子 同 白井チカ 同 倉増太代
同 山根幾子 同 小野サキ 同 都築ユキコ
同 藏重ツル 同 松本八重子 同 瀧口澄江
裁縫 ネクタイ (補習科石川ハルコ 同齋藤ミツ)
手藝 薔薇簪 (二年津田サダ子 同井上壽子)
修身 理想の淑女 (補習科厚東フミ 同柴田キク)
國語朗讀 田舎の生活 (二年岸 綠)
歴史 日本と支那との國體について (二年金重安子)

展覽會

生花

作文、和歌、習字、歴史年表 (補習科及三學年生)
地圖、圖書、家事、裁縫、手藝 (各學年生)

○記念松樹寄贈 大正七年一月二十五日擴張工事落成式

並に開校五周年記念式舉行の際萩町増山宗史より記
念松樹の寄贈あり同日新築作法教室玄關前に植付け
景趣を添ふ

○南園會に寄附 萩町故陸軍豫備歩兵少佐岡本民三氏遺

族岡本義助は少佐が生前の遺志を紹述し本年二月二
日金參拾圓を同校南園會特別資金に寄贈せり同會は
其利息を會の學藝部運動部に充つる計畫なり又萩町
繁澤寅之助は井上伯揮毫の一軸を同町田村正一は村
田清風翁揮毫の一軸をいづれも史料の助にとり同校
南園會に寄贈したり

物理 磁石の實驗 (二年林貞子 同 倉田喜久子)
唱歌 南の園 (生徒全体)
生花 (補習科倉富イチ 同 池田京子)
家事 小包の仕方 (三年早川昭子 同 屬智世子)
農業 養蠶の話 (二年瀧口和子) 中山壽子
國語 (談話) 孝女津岐 (三年堀上ヨシ)
數學 數學的遊戲 (三年山田マサコ 同 今田ナチコ)
同 大谷文子 同 吉村糸妣
同 香川マサ
珠算 速算 (三年竹重ツチ 同 田中靜子)
同 瀨戸藤之 同 河野ツチ
同 石川梅尾
教育 教育の大切な事と母の任務 (補習科松本靜子)
武甲流薙刀と木劍との仕合 (補習科齋藤雪枝)
同 末岡ハルコ
薙刀型 武甲流薙刀と薙刀との仕合 (補習科石川ハレコ)
同 田中清子
薙刀要の技二十本連續 (補習科堀上ヨシ)
同 今田ナチコ
閉會の辭

辭令

小學校教員異動

新任

辭令月日	學校名	職名	俸給	氏名
一月卅一日	野戸呂	准訓導心得	月俸八圓	柴崎フジ
二月一日	明木全	全	全	村上三郎
二月二日	育英訓	導六級下俸	全	澄川テイ
二月六日	奈古	准訓導	導六級上俸	安間哲男
全	長高	准訓導心得	月俸八圓	高松フジ

轉任

辭令月日	轉任校名	舊任校名	職名	俸級	氏名
一月十八日	長高奈古	古	訓導兼 長八級上俸	八級上俸	高松鶴吉
全	下小川育英	英訓	導十級上俸	全	井上文男
一月廿八日	錦波郡野戸呂	全	全	六級下俸	森田ハツ
一月卅日	白水吉部	全	全	六級下俸	大和サダ
全	紫福福田	全	全	八級上俸	齋藤ミドリ

一月三十日	吉部白水訓導	六級下俸	三輪トシ
全	明木新狹郡	八級上俸	伊藤アキ
全	福川明木	八級下俸	中島スエ
二月六日	育英椿東	十級上俸	井上八郎
全	椿東長	高准訓導	岡出チサト

辭令月日	校名	職名	氏名
一月廿三日	大井	准訓導	磯部與三郎
一月廿八日	福川	全	林繁延
一月卅日	紫福	訓導	高松フシ

辭令月日	校名	職名	氏名
一月十七日	徳佐	訓導	澄川龍藏
全	彌富	全	奥川壽亮
全	全	全	尾坂茂々代

□實業補習學校教員異動

新任

退職

一月十七日	篠生	訓導兼校長	長敬輔
全	全	全	山中光一
全	全	全	吉松静修
全	全	全	大方清市
全	全	全	藤原久枝
全	全	全	内田ツチャ
全	全	全	植村雪子
一月廿一日	彌富	准訓導心得	波多野喜代一
一月廿八日	多磨	訓導	谷本新市
一月卅日	全	訓導	高村茂太郎
全	全	全	徳永四郎
全	全	全	伊藤アキ
全	全	全	大和サダキ
全	全	全	齋藤ミドリ
全	全	全	三輪トシ
全	全	全	中島スエ
二月一日	椿東	准訓導心得	岡棄熊

參考資料

學校名	男	女	計	本月順位	前月順位
持坂西田木川高島高瀬濱川野年川生英並呂磨	九九、二四	九八、〇〇	九八、七三	一	一五
椿田西田木川高島高瀬濱川野年川生英並呂磨	九九、一三	九八、二二	九八、六八	二	一七
宇田西田木川高島高瀬濱川野年川生英並呂磨	九九、一九	九八、一〇	九八、六五	三	一四
明木川高島高瀬濱川野年川生英並呂磨	九八、八五	九七、八四	九八、三一	四	一四
上川高島高瀬濱川野年川生英並呂磨	九八、二一	九七、八六	九八、〇六	五	一四
大島高瀬濱川野年川生英並呂磨	九七、五二	九七、四二	九七、四七	六	一三
長高瀬濱川野年川生英並呂磨	九八、三四	九六、二三	九七、四四	七	一三
高瀬濱川野年川生英並呂磨	九六、七八	九七、九八	九七、三六	八	一六
越濱川野年川生英並呂磨	九七、五六	九七、一二	九七、三五	九	一六
福川野年川生英並呂磨	九七、一三	九七、三九	九七、二六	一〇	二七
立野年川生英並呂磨	九七、六七	九六、一三	九七、〇一	一一	二二
嘉年川生英並呂磨	九七、四六	九六、四四	九六、九五	一二	二五
小川生英並呂磨	九七、九〇	九五、八七	九六、九一	一三	二六
篠生英並呂磨	九七、六三	九五、九四	九六、七八	一四	二一
育英並呂磨	九六、三五	九六、一五	九六、七七	一五	一八
佐並呂磨	九七、五一	九六、三三	九六、四四	一六	一七
野呂磨	九五、七六	九四、九八	九六、三〇	一七	一三
多磨		九六、二〇	九五、九六	一八	一一

一 町村立尋常小學校兒童出席歩合表

(大正七年一月分)

目次

- 一、町村立尋常小學校兒童出席歩合表
- 二、町村立高等小學校兒童出席歩合表
- 三、郡費支出各郡比較表
- 四、戶數割附加税ニ關スル調査表(決算)
- 五、戶數割附加税ニ關スル調査表(豫算)
- 六、衆議院議員選舉有權者人員表
- 七、傳染病患者類別郡市比較表
- 八、陸軍將校生徒志願人員郡市比較表
- 九、海軍志願兵檢査成績郡市比較表
- 一〇、第五師團各部團隊長人名表
- 一一、農業部落經濟調査ニ依ル一戸平均比較表
- 一二、新舊時刻對照及方位表

學校名	學名	前月郡平均	本月郡平均	川藏奈
小佐字福高篠椿紫嘉明彌育椿	小佐字福高篠椿紫嘉明彌育椿	九六、〇三	九五、二八	九一、〇五
川並田川俣生東福年木富英西	川並田川俣生東福年木富英西	九四、三九	九三、九一	八九、二八
男	女	計	本月順位	前月順位
九八、九〇	九九、六六	九九、二九	一	七
九八、九四	九九、八〇	九九、二四	二	三
九八、九二	九九、〇五	九八、九六	三	一
九九、五八	九七、〇九	九八、八七	四	二
九九、五二	九八、〇二	九八、八一	五	〇
九八、三四	九九、四〇	九八、六九	六	二
九八、七〇	九七、五三	九八、二七	七	四
九七、七三	九三、二五	九七、九九	八	〇
九七、三三	九八、四一	九七、九四	九	一
九七、九六	九八、八六	九七、八三	〇	二
九八、一四	九六、九七	九七、六八	一	五
九九、八二	九七、〇六	九七、六二	二	六
	九三、三四	九七、四四	三	六

二町村立高等小學校兒童出席歩合表

(大正七年一月分)

學校名	學名	前月郡平均	本月郡平均	川藏奈
白高吉生見大彌三半明徳相下紫地福篠木鈴椿龜	白高吉生見大彌三半明徳相下紫地福篠木鈴椿龜	九四、〇〇	九三、九八	九一、〇五
水俣部雲島井富見田倫佐島川福福田目間川東山	水俣部雲島井富見田倫佐島川福福田目間川東山	九四、〇〇	九三、九八	八九、二八
男	女	計	本月順位	前月順位
九六、九六	九四、六二	九五、八九	一	二
九六、一五	九五、六〇	九五、八八	二	〇
九四、七六	九六、七〇	九五、七二	三	一
九八、〇五	九四、〇三	九五、六八	四	二
九五、五三	九五、八三	九五、六五	五	〇
九六、一六	九四、八九	九五、五六	六	二
九六、三六	九四、六一	九五、四六	七	四
九六、四二	九三、七二	九五、〇七	八	二
九四、三七	九五、五八	九四、九七	九	一
九七、一二	九二、二九	九四、七三	〇	二
九五、五八	九三、三五	九四、三五	一	五
九四、四七	九三、二七	九三、八九	二	三
九三、九七	九三、三九	九三、六九	三	一
九四、一二	九二、八九	九三、五三	四	〇
九二、三四	九四、五〇	九三、二八	五	三
九四、〇〇	九〇、一〇	九二、〇〇	六	四
九三、九八	八九、六四	九一、八二	七	一
八七、六〇	八九、二四	九〇、七一	八	〇
九二、九七	八八、七〇	九〇、七〇	九	三
九二、七八	八八、六五	九〇、六五	〇	四
九一、九七	八八、二四	九〇、二五	一	三

町村名	種目	町村稅總額	戶數割附加稅ニ關スル調査表 (決算)	町村稅總額ニ對スル戶數割附加稅百分比例
大玖熊	高珂毛	九、三三二	一、一〇三	一二七、三〇
都濃	波濃	三、四三六	一、五三七	八二、四〇
佐敷	波敷	一、一五三	九、九	六七、〇〇
吉敷	波敷	一七、七五八	一、二六二	六二、〇〇
厚狹	波敷	二〇、〇五七	一、七一九	六六、七〇
豐浦	波敷	一、二、三七四	七、七	三五、〇〇
美瀨	波敷	九、八五一	九、九三	四〇、〇〇
大津	波敷	一七、四八四	九、八五	四六、〇〇
阿武	波敷	七、五〇七	一、三〇一	四一、〇〇
		一六、五六四	二、三〇四	一〇五、九〇
		一九、〇三七	一、二三四	五、五〇
萩	東分	二六、八四六	三、七九四	七三、五〇
椿郷	東分	一八、〇〇六	六、三三〇	八四、二四
山田		八、七五七	八、三五〇	八五、七三
三見		九、八〇一	六、二九	七四、八五
明木		六、三七九	六、一六三	八五、七六
		七、一〇〇	八、四二二	八三、〇二

(五)

郡別	學校名	男	女	計	本月順位	前月順位
三郡費支出各郡比較表 (大正六年度)	地福	九八、二四	九六、七四	一九七、四三	一四	二二
	明倫	九六、七九	九七、七〇	一九六、七四	一五	二三
	多磨	九六、八三	九三、九九	一九六、二一	一六	一八
	徳佐	九四、五一	九九、三八	一九六、〇八	一七	一一
	三見	九七、六一	九一、〇八	一九五、九五	一八	一九
	福田	九四、七八	九二、三七	一九四、二〇	一九	一〇
	白水	九四、三八	九四、六二	一九四、三八	二〇	一一
	奈古	九四、五〇	九三、四五	一九四、三三	二一	一二
	生雲	九三、三二	九〇、四七	一九一、八八	二二	一三
	吉部	九二、〇三	六〇、六九	九一、四七	二三	一四
	見島	九四、七八	七三、八一	九一、三九	二四	一五
川上	八九、二一	九三、六五	九〇、〇一	二五	一六	
大井	九二、一一	八七、一八	八六、七二	二六	一七	
大島	八五、七一	八九、五二	九五、六一	二七	一八	
本月郡平均	九六、一五	九四、七九	九六、五五	二七	一九	
前月郡平均	九六、三八	九六、八三	九六、五五	二七	一九	

(四)

町村名	種目	町村稅總額	戶數割附加稅課稅標準額	戶數割附加稅課率	町村稅總額=對スル戶數割附加稅百分比
見島	合算計	四、二六八、〇六〇	六三、四九〇	六、一四八	八九、六八
萩	萩郷東分	一五、七九三、〇五〇	二、八六二、二八〇	三、六六〇	六六、一三
椿	椿郷東分	一一、〇二六、二四〇	一、三二二、二七九	六、一五〇	七三、〇七
山	山見田	五、五二二、八六〇	五〇七、五三四	八、四五〇	七七、七九
三	三見田	八、七五八、〇〇〇	一、一五二、二六〇	五、九七三	七六、五九
明	明木	四、四二〇、一六〇	九六七、九五〇	三、六三六	七九、八一
佐	佐並	五、九五五、〇六〇	五五二、四〇〇	八、五九六	七九、七四
川	川上	四、三三三、九一〇	三九七、九〇〇	七、三九五	六八、二二
篠	篠生	六、三六一、九六〇	六〇七、二〇〇	八、四九八	八〇、八五
生	生雲	六、九六七、七三〇	九〇二、二五〇	六、一八八	八〇、一三
地	地福	九、六九四、〇六〇	一、五八一、六八〇	四、七九五	七八、二三
德	德佐	七、一四六、五〇〇	一、〇六七、三五〇	五、一八六	七七、四六
嘉	嘉年	一一、三三一、六九〇	二、〇四二、四〇〇	四、〇〇〇	七二、〇八
高	高侯	七、〇〇三、〇〇〇	八〇九、〇〇〇	七、二〇〇	八三、一七
吉	吉部	七、四〇三、〇〇〇	八五八、〇〇〇	七、二〇〇	八三、四一
		六、三六六、六一〇	九三九、四四〇	五、三六一	七九、一一

五戸數割附加稅ニ關スル調査表 (豫算) 大正六年度

(七)

町村名	種目	町村稅總額	戶數割附加稅課稅標準額	戶數割附加稅課率	町村稅總額=對スル戶數割附加稅百分比
見島	合算計	四、二六八、〇六〇	六三、四九〇	六、一四八	八九、六八
六田	六田萬島	三、八五六、六〇〇	四四四、五三〇	七、九四九	九一、七九
小	小川	八、二八一、四〇〇	一、二七〇、三二〇	四、八九〇	七五、〇二
彌	彌富	一〇、〇八九、三〇〇	一、五七四、三七〇	五、七九五	九〇、四二
須	須佐	六、五九八、五二〇	八七二、五六〇	六、二九三	八三、五三
福	福賀	一〇、八二五、五〇〇	一、六六二、三〇〇	五、三七〇	八二、五三
宇	宇郷	八、二四五、七九八	九三六、七九〇	五、八〇三	六六、〇七
奈	奈古	五、四九九、一三〇	九四六、四二〇	四、八五五	八三、五五
大	大井	一〇、九五四、四一〇	一、一九五、五四〇	八、〇三五	八二、一一
紫	紫福	九、二八〇、〇五〇	八六五、五六〇	八、六二三	八〇、三四
福	福川	一〇、六三六、八一〇	一、三九九、六六〇	六、三〇八	八〇、二九
吉	吉部	七、〇九〇、八〇〇	八九四、七四〇	六、三五八	八〇、二三
高	高侯	八、四〇四、九七〇	九一五、一五〇	七、七九五	八四、八七
嘉	嘉年	五、九八八、四〇〇	七八七、五〇〇	六、〇九八	八〇、一九
德	德佐	一〇、一八六、六二〇	一、八八一、六四〇	三、六七二	六八、二六
地	地福	六、五九八、九六〇	一、〇九六、六二〇	四、四九五	七五、六八
生	生雲	九、六六七、二七〇	一、五〇二、九六〇	四、九五四	七七、二〇
川	川上	六、六六五、九六〇	九五五、六九〇	六、五〇九	九三、三三
佐	佐並	一一、三〇七、五〇〇	一、六三三、七一〇	九、六六二	九一、三六
		六、五七〇、六六〇	七三三、六四〇	七、〇九三	七九、六三

(六)

町村名	種目	本年	前年	増員	減員	納稅額
山見田	田	一〇七	一〇七	〇	〇	二、〇九〇
三木	田	七二	七六	〇	〇	一、五五六
明並	田	七三	七四	〇	〇	二、一七〇
佐上	田	一一七	一一一	〇	〇	二、四一六
川生	田	五五	五〇	〇	〇	一、〇八三
篠雲	田	八〇	八二	〇	〇	一、五九一
地福	田	一一八	一一〇	〇	〇	三、二四三
德佐	田	二二二	二二二	〇	〇	二、七三一
嘉年	田	八七	八七	〇	〇	五、六七三
高侯	田	七七	八五	〇	〇	二、〇五六
吉部	田	八一	八三	〇	〇	一、七六六
福川	田	一九六	一九七	〇	〇	三、七三八
紫井	田	一六一	一六五	〇	〇	四、三三五
大古	田	九〇	九〇	〇	〇	三、九五八
奈賀	田	六八	六九	〇	〇	二、二六五
字郷	田	六五	六九	〇	〇	一、九九八
福賀	田	一二六	一二七	〇	〇	一、六〇七
須賀	田	一三〇	一三〇	〇	〇	二、七四六
小富	田	八二	八〇	〇	〇	三、一六一
小川	田	一三一	一三〇	〇	〇	一、九一六
合計		二、七三三	二、八〇〇	六	六	四、四一九

(九)

町村名	種目	本年	前年	増員	減員	納稅額
福川	田	一、九七九	一、四六九	五一〇	〇	六、四四九
紫井	田	六、六二一	九、九七三	三、三五〇	〇	四、九六五
大古	田	七、五八三	七、〇一〇	五七三	〇	八、三〇四
奈賀	田	七、二〇五	六、〇九八	一一〇	〇	八、四九五
宇郷	田	二、九三三	三、三九〇	四五七	〇	六、一四三
福賀	田	七、五四四	九、七九〇	二、二四六	〇	五、五九二
須賀	田	九、七二二	一、三四九	八、三七三	〇	五、七九九
小富	田	五、五四八	七、〇六	一、五一八	〇	六、二七七
田崎	田	九、〇〇〇	一、六六二	七、三三八	〇	四、三三五
六島	田	六、四八一	一、二七四	五、二〇七	〇	三、六六四
見島	田	二、一三三	二、四六五	三三二	〇	七、二一六
合計		五、六七一	六、七二二	一一〇	〇	六、二〇三
合計		二〇〇、五七四	二七、五六八	一七二、〇〇六	〇	五、五四八

六衆議院議員選舉有權者調

大正六年十二月廿日確定

町村稅總額=對スル戶數割附加稅百分比例

(八)

郡	熊	豐	厚	佐	吉	玖	阿	合
濃	毛	浦	狹	波	敷	珂	武	計
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	敷
二八	四〇	二八	四三	四九	五八	七四	六七	二三
中小	中小	中小	中小	中小	中小	中小	中小	一
一一二六	一一一九	一一七一	三三九四	二二二六	二二三五	一五七七	一五六一	七三三
減	減	減	增	增	減	減	增	一三六
四	二	二	四	二	一九	六	二〇	八九一
一〇	八	二	一	六	一七	一	二四	一四二
減	減	減	增	減	減	減	減	七七
五	五	一	三	八	九	八	一〇	四一〇
一	〇	三	〇	四	一	一	三	二〇九七
三九	四八	五二	五四	五九	七六	八六	九四	三五五

備考

本表ニハ疑似症患者數及腸窒扶斯中ニハ「バラ窒扶斯」ヲ包含ス

八陸軍將校生徒志願人員郡市比較表

大正七年度

幼年學校生徒志願人員
 士官候補生志願人員
 主計志願人員
 大正七年員

町付名	種目	本年	前年	増員	減員	納稅額
阿武郡	虎列刺	二二	一四六	一九七	九一	一〇九
厚狹郡	赤痢	一	二五	二〇七	二六七	一九八
豐浦郡	腸窒扶斯	一	九四	一九五	一七四	八七
佐波郡	其他	一	九〇	一六四	一〇九	七六
都珂郡	計	一	八八	一〇一	一〇一	五四
美彌島	成績順位	一	二五	二〇七	二六七	六五
大熊毛		一	九一	一〇一	一〇一	四三
下關津		一	二五	二〇七	二六七	六二
田万崎		一	二〇	二〇七	二六七	六二
六島		一	二五	二〇七	二六七	六二
見島		一	二五	二〇七	二六七	六二
合計		二、八七〇	二、九二九	五九	五九	七、六、五、三、三

備考

本表中〇ハ増ヲ示ス

七傳染病患者類別郡市比較表

大正六年調

虎列刺
 赤痢
 腸窒扶斯
 其他
 計
 成績順位

熊島毛	九一	四五	四八	五二〇	四
大島郡	三五	二〇	一八	五一四	五
美濃郡	三九	一一	二〇	五一三	六
佐波郡	一一九	八	五八	四八七	七
玖珂郡	二八	四	四一	四六〇	八
阿濃郡	一〇七	一〇	一〇二	四三六	九
都濃郡	一四一	四	四六	四二八	〇
下關市	一五	五	四六	三二六	一
合計	一一二九	五二九	五二九	四六九	二

第十第五師團各部團隊長人名表 (其一)

大正七年一月十日調

第五師團司令部	師團長 中將 福田雅太郎	聯隊區司令部	廣島步兵第十一聯隊
參謀長 步大佐 西原爲五郎	高級副官 步少佐 松本三太郎	聯隊長 步大佐 津野田是重	第一大隊長 步少佐 道正助次
高級副官 步少佐 松本三太郎	法官部長 理事高五 小堀銈作	聯隊長 步少佐 三浦明	第二大隊長 步少佐 竹下範國
經理部長 一主計正 木村茂	軍醫部長 一軍醫正 長尾半	聯隊長 步大佐 梅津喜一	第三大隊長 步少佐 松山步兵第二十二聯隊
獸醫部長 二獸醫正 佐藤右太吉	山司令部 官步大佐 小野田一	聯隊長 步少佐 落合重巳	

(二三)

大津郡	二八	增	三	五	減	二	〇	三三
大島郡	二二	增	〇	三	減	〇	〇	二四
美濃郡	二〇	減	一	〇	減	五	一	二二
下關市	九	增	一	三	〇	〇	〇	一一
合計	四六五	減	二五	一九	減	五〇	一四	五九八

九海軍志願兵檢查成績郡市比較表

大正六年調

郡市別	志願者總數	合格人員	受檢者總數對スル合格者百分比	成績順位
大津郡	五二	三四	六〇・七	一
大島郡	六五	三六	五五・四	二
美濃郡	一三八	七五	五四・三	三

備考

一、前年度幼年生徒志願者四百九十名ノ内三十四名合格採用(召募總人員ハ三百人ナリ)

二、前年度士官候補生志願者六十九名ノ内十二名合格採用(召募總人員ハ二百二十人ナリ)

三、前年度主計候補生志願者三十三名ノ内三名合格ス(召募人員七十人ナリ)大正七年度、同志願者ハ前年度ヨリ十九名減少セリ

(二三)

第五師團各部團隊長人名表 (其二)

山口步兵 第四十二聯隊	聯隊長 步大佐 松井兵三郎	聯隊長 砲中佐 長澤政治	院 長 一軍醫正 木村辰次
聯隊附 步中佐 田所浪吉	步少佐 宇治虎雄	聯隊長 砲大佐 石井常造	院 長 三軍醫正 比留尚真造
步少佐 田卷拾三	步少佐 吉田彦治	第一大隊長 砲少佐 小林隆一	院 長 衛 戍 病 院
步少佐 津田春	三軍醫正 安井勝治	第二大隊長 砲少佐 井上九郎	院 長 衛 戍 病 院
第一大隊長 步少佐 瀧谷壽一	第二大隊長 步少佐 瀧谷壽一	廣島重砲兵 第四聯隊	院 長 衛 戍 病 院
第一大隊長 步少佐 瀧谷壽一	第二大隊長 步少佐 瀧谷壽一	聯隊長 砲中佐 久間盛一	院 長 衛 戍 病 院
第二大隊長 步少佐 瀧谷壽一	第一大隊長 步少佐 瀧谷壽一	聯隊長 砲大佐 松田八郎	院 長 衛 戍 病 院
第三大隊長 步少佐 園田元助	第一大隊長 步少佐 園田元助	廣島野砲兵 第五聯隊	院 長 衛 戍 病 院
廣島步兵 第七十一聯隊	聯隊長 砲大佐 石井常造	聯隊長 砲中佐 松田八郎	院 長 衛 戍 病 院
聯隊長 步大佐 梅田岩樹	第一大隊長 砲少佐 小林隆一	聯隊長 砲中佐 松田八郎	院 長 衛 戍 病 院
第一大隊長 步少佐 中島孝治	第二大隊長 砲少佐 井上九郎	聯隊長 砲中佐 松田八郎	院 長 衛 戍 病 院
第二大隊長 步少佐 篠原四郎	廣島工兵 第五大隊	聯隊長 砲中佐 松田八郎	院 長 衛 戍 病 院
第三大隊長 步少佐 能村久次郎	聯隊長 砲大佐 石井常造	聯隊長 砲中佐 松田八郎	院 長 衛 戍 病 院
松山步兵 第二十二聯隊	第一大隊長 砲少佐 小林隆一	聯隊長 砲中佐 松田八郎	院 長 衛 戍 病 院
第二大隊長 步少佐 東 虎 彦	第二大隊長 砲少佐 井上九郎	聯隊長 砲中佐 松田八郎	院 長 衛 戍 病 院
第三大隊長 步少佐 能村久次郎	廣島重砲兵 第四聯隊	聯隊長 砲中佐 松田八郎	院 長 衛 戍 病 院

大正七年一月十日調

(一四)

一一 農業部落經濟調査ニ依ル一戸平均比較表

大正五年調

入 收	債 負	産 資	區 分	部落名	藏 庫
主 産 物	金 子	土地、牛馬、鶏		明木村	蔵
副 産 物	金 子	貯金、貸金、株券、		大井本	蔵
	金 子	賴母子掛込金		生雲村	蔵
	金 子			野北内	蔵
	金 子			小川市丸	蔵
	金 子			嘉年村	蔵
	金 子			吉部村	蔵
	金 子			平ヶ重	蔵
	金 子			理想農家	蔵
	金 子			備 考	蔵

(一五)

十二支	舊時刻	新時刻	方位別稱	方位	主產物ノ對スル 副產物ノ對スル	資産ニ對スル 負債ノ割合	金穀負債人員ノ 割合	一二新舊時刻對照及方位表	
								子	丑
亥戌酉申未午巳辰卯寅子	夜九時	夜十時	子	北	五、五〇	一、一〇	二、四四	子	
同夜	八時	九時	丑	北	三、六三	八、三	六、五三	丑	
四五六	七時	八時	寅	東	七、三	三、〇一	七、五〇	寅	
同夜	六時	七時	卯	東	六、三九	一、六〇	九、四七	卯	
同夜	五時	六時	辰	東	、五	五、三	八、五七	辰	
同夜	四時	五時	巳	南	一、二四	七、九〇	一〇、〇〇	巳	
同夜	三時	四時	午	南	一二、二九	、	、	午	
同夜	二時	三時	未	南	、	、	、	未	
同夜	一時	二時	申	西	、	、	、	申	
同夜	十二時	一時	酉	西	、	、	、	酉	
同夜	十一時	十二時	戌	西	、	、	、	戌	
同夜	十時	十一時	亥	北	、	、	、	亥	

(一七)

總收入ノ割合	地耕當戶一 計畑田	價單地土 山畑田林	住勞働者一人當 高一人當	主産物ノ對スル					支 出	區分 部落名
				米	麥	牛	果實	木炭		
一、四九	八、四〇〇	一五、〇〇	一四、二七	二三四、三三	八四、〇三	二一、六五	三、三七	一七、三五	五四、七一	明木村
一、四九	一、四〇四	一〇〇、〇〇	一四、二七	二三四、三三	八四、〇三	二一、六五	三、三七	一七、三五	五四、七一	大井村
一、四九	七、〇一六	一五〇、〇〇	一四、二七	二三四、三三	八四、〇三	二一、六五	三、三七	一七、三五	五四、七一	生雲村
一、四九	七、〇一六	一五〇、〇〇	一四、二七	二三四、三三	八四、〇三	二一、六五	三、三七	一七、三五	五四、七一	野村
一、四九	六、一〇二	一四〇、〇〇	一四、二七	二三四、三三	八四、〇三	二一、六五	三、三七	一七、三五	五四、七一	小川村
一、四九	二、五二七	一五〇、〇〇	一四、二七	二三四、三三	八四、〇三	二一、六五	三、三七	一七、三五	五四、七一	市丸
一、四九	八、七二六	一五〇、〇〇	一四、二七	二三四、三三	八四、〇三	二一、六五	三、三七	一七、三五	五四、七一	河內
一、四九	一、四〇四	一〇〇、〇〇	一四、二七	二三四、三三	八四、〇三	二一、六五	三、三七	一七、三五	五四、七一	嘉年村
一、四九	七、〇一六	一五〇、〇〇	一四、二七	二三四、三三	八四、〇三	二一、六五	三、三七	一七、三五	五四、七一	追村
一、四九	二、五二七	一五〇、〇〇	一四、二七	二三四、三三	八四、〇三	二一、六五	三、三七	一七、三五	五四、七一	吉部村
一、四九	六、一〇二	一四〇、〇〇	一四、二七	二三四、三三	八四、〇三	二一、六五	三、三七	一七、三五	五四、七一	重村
一、四九	二、五二七	一五〇、〇〇	一四、二七	二三四、三三	八四、〇三	二一、六五	三、三七	一七、三五	五四、七一	理想農家
一、四九	八、七二六	一五〇、〇〇	一四、二七	二三四、三三	八四、〇三	二一、六五	三、三七	一七、三五	五四、七一	備考

(一六)

生徒募集廣告

○募集人員

第一學年生徒 百名
第二學年生徒 補缺若干名

○入學願書差出期限

入學願書及履歷書に戸籍謄本を添へ三月廿日迄に到着すべきやう本校に提出の事

○入學試験期日及場所

三月廿八日 第一學年入學志願者
三月廿九日 第二學年補缺入學志願者

試験は本校並須佐育英小學校地福小學校に於て之を行ふ

詳細は最寄小學校又は町村役場に就き承合せられたし

大正七年二月

山口縣阿武郡立實科高等女學校

阿武郡阿武十九號 大正七年二月十五日發行 ◎大正六年十二月十九日 第三種郵便物認可 ◎毎月一回十五日發行 一部代價 金拾錢